

国際部報告 2

世界鍼灸学会連合会マレーシア 2006年国際鍼灸シンポジウム報告

鈴木 聡

鈴鹿医療科学大学

要 旨

世界鍼灸学会連合会 (WFAS; World Federation of Acupuncture-Moxibustion Societies) の国際シンポジウムが、2006年4月22日・23日の両日、マレーシア、クアラルンプールのコンベンションセンターにて開催された。大会テーマは「中高年における健康的な加齢の促進 - 鍼灸と中薬 - (Acupuncture, Moxibustion and Chinese Medical to Maintain and Enhance Healthy Aging of Middle Age and Elderly Group)」で、マレーシア中医師公会所属マレーシア中医師鍼灸専門学会が運営にあたり、マレーシア中医師公会の廖徳順氏が大会長を務めた。本稿では当学会の概要、主な研究報告、開会、閉会式の模様などを報告する。

キーワード：世界鍼灸学会連合会、WFAS、マレーシア中医師公会、国際シンポジウム、加齢

I. はじめに

世界鍼灸学会連合会 (WFAS: World Federation of Acupuncture-Moxibustion Societies) マレーシア 2006年国際鍼灸シンポジウムが「中高年における健康的な加齢の促進 - 鍼灸と中薬 - (Acupuncture, Moxibustion and Chinese Medical to Maintain and Enhance Healthy Aging of Middle Age and Elderly Group)」というテーマで4月22日から23日の2日間、マレーシアのクアラルンプール・コンベンションセンター (図1) で開催された。主催はWFAS、運営はマレーシア中医師公会所属マレーシア中医師鍼灸専門学会があたり、大会会長はマレーシア中医師公会の廖徳順会長が務めた。

マレーシアとクアラルンプール・コンベンションセンター

マレーシアは人口約2700万人を有するマレー



図1 .クアラルンプール・コンベンションセンター正面玄関

系、中国系、インド系そして多数の部族に分けられる先住民で構成される多民族国家で、通年平均気温 28℃、熱帯気候に属する。公用語はマレー語であるが、英語、中国語、タミール語もよく使われ、英語教育の水準は比較的高くほとんどの場所に通じる。大会期間中は日中気温が 30℃ を超える晴天に恵まれ、日本の真夏を思わせる強い日差しと積乱雲がみられた。

クアラルンプール・コンベンションセンターは KLCC (クアラルンプール・シティ・センター) パークに隣接しており、この KLCC パークを取り囲むようにペトロナスツインタワーや 5 スターホテル、巨大ショッピングセンタースリア KLCC (2004 年国際不動産開発連盟賞受賞) など多くの近代施設が建ち並び、観光やショッピングにも非常に便利な世界からも注目を浴びるエリアである。

大会が開催されたクアラルンプール・コンベンションセンターは昨年オープンしたばかりの同時通訳システム、ワイヤレス LAN、3G 情報通信などに対応する最新の設備を備えた国際会議場で、地下には水族館「アクアリア」もあり、ここを訪れた参加者は会議中の疲れが癒されると言っていた。

シンポジウム参加人数

今回のシンポジウムはマレーシア、シンガポール、中国、台湾、韓国、ドイツ、オーストラリア、ベトナムなどの国と地域から総勢 1000 名を超える参加者があった。運営にあたった鍼灸専門学会の楊建輝会長によると当初の目標は 600 名であったが、実際は当日参加約 100 名を含め 1000 名を超える大規模な会議となった。大半が地元マレーシアの参加者で続いて隣国シンガポールの参加者も多くみられた。日本からの参加者は著者 1 名で廖、楊両会長もこの少なさに残念がっていた。

開会式

開会式は 22 日 8 時半から開始の予定であったが、30 分以上遅れた 9 時過ぎによやく開始された。この間大会関係者はさすがに準備に追われている様子であったが、参加者らは文句の一つも言わず楽しそうに歓談をしている様子で、ここでも

中国時間 (あるいは華僑時間というのであろうか) が存在することに気づいた。

開会式は、はじめにマレーシア国歌の斉唱が行われ、大会会長 廖徳順氏、世界針灸学会連合会主席 鄧良月氏、青年体育部副部長 拿督廖中萊氏 (Y.B Dato' Liow Tiong Lai Deputy, Minister of Youth and Sport, Malaysia) の挨拶が行われた。その後三氏が大会の成功を願い銅鑼を一回ずつ鳴らし、最後に今シンポジウムのスポンサー各代表者によるテープカットが行われた。国歌斉唱ではじまる大会というのも印象的で、異国ムードを感じることができた要因のひとつであった。

研究発表

今回のシンポジウムにはポスター発表はなくすべて口演による発表であった。WFAS 名誉主席 王雪苔氏の「経脈循行路線の現代科学的検証」にはじまり、最後の天津中医薬大学第一附属病院名誉院長 石学敏氏の「醒腦開竅刺鍼治療による中風の臨床及び実験研究」(風邪で欠席のためシンガポールの演者に変更された) まで 62 の口演が四会場に分かれて行われた。第一会場 (約 600 席) では、中国から参加の名高い研究者や日本、韓国、ドイツ、台湾の研究者が口演をおこなった (図 2)。第二～四会場 (各会場約 180 席) では地元やシンガポールからの研究者を中心に口演が行われた。1000 名以上の参加者が集まったということもあ



図 2. 第一会場 (メインホール) 後ろより



図3．展示会場 第一会場の講演が放映されている

り、どの会場もほぼ満席で、会場に入りきれない参加者が通路や展示ホールで同時中継されている第一会場の発表を聞いている姿も多く見受けられた(図3)。発表内容は臨床研究や理論研究が多く、基礎研究が少なかったものの学術的なものが割合多かった。これは著者の推測に過ぎないが、今回発表された論文の多くが学位論文のようである。そのためかプログラムを見ても分かるように演者のほとんどすべてが博士、修士の学位取得者や研究機関や大学の教授であった。楊会長らも、今大会には多くの論文が寄せられたが査読を厳しくし最終的に学術性の高い62論文に選出したことを強調していた。

ここでいくつかの発表を紹介してみようと思うが、北京大学神経学研究所の韓濟生教授(中国アカデミー会員)の「刺鍼療法の実質」に関する研究報告は非常に興味深いものであった。韓氏は長年にわたりアメリカNIHとの共同研究をすすめているが、多くの疾患に対する刺鍼間隔は2~3日のほうが効果は蓄積され、治癒(ゴール)に至る期間も短く、また治療効果も長続きすることが動物実験と臨床実験から分かっているという。これは日本の鍼灸治療は治療間隔が比較的長いことを考えるとうまく効果を引き出せていないのではと考えさせるものであった。また刺激量も弱いよりも強いほうが生体の多くの部位に良性反応を引き起こし治療効果がよいといっており、日本の鍼灸師が好む(もしくは患者が好んでいるのであろうか)比較的弱い刺激では効果が少ないのではな

いかと考えさせられる内容であった。さらにはドイツからの研究発表を例に取り上げ、自らの研究においても経穴部位と非経穴部位への刺激はいくつかの疾患に対する治療効果に差異がないという結果が出ており、経穴は絶対的ではなく相対的なものであると強調していた。現在WHOが経穴部位の国際標準化を進めており、鍼灸の研究や教育の発展のためには必要な作業かもしれないが、このように経穴がずれていても治療効果に大きな差がないという報告が挙げると、経穴の重要性とは何なのかを考えさせられる報告であった。

また第一会場での発表ではなかったが、非常に好評で入り口からも参加者があふれている口演があった。上海中医薬大学の戴居雲教授による鍼灸ダイエットと美容に関する発表で、なぜそこまで多くの注目を集めるのか立ち見をしていた地元中医師に聞いたところ、「マレーシアも生活が豊かになるにつれ肥満も多くみられるようになった。また日差しが強く常に皮膚を痛め、さらには食欲を増進させるために味の濃いものや辛いものをよく食べるので皮膚に吹き出物など色々な症状が出やすい。そのために戴教授の発表はまさに地元臨床家が注目している内容なのだ」ということであった。ここ十年くらい間にマレーシアでも女性を中心に美意識の向上がめざましく、欧米技術を用いたエステティックまでとは行かないものの漢方美容や美容鍼灸を求める患者も増えていることは確かなようである。

口演時間は数名の特別口演35分間を除き、25分の時間が割り当てられた。座長が5分前には終了するようにとの指示を徹底していたためもあり質疑応答も充分に行っていた。大会言語は英語及び中国語ということであったが、数名の演者を除いて全て中国語による発表であった。英語への同時通訳は行われていたが、韓国、ドイツの研究者が英語で口演をした際にレシーバーを持たない大量の参加者らが中国語で行われている第二~四会場に移動する場面もあった。今回の大会が中国色の強いことを感じさせられた一面であった。今回のシンポジウムでは多くの参加者が臨床手技に関心を寄せデモンストレーションを望んでいたが、大会側の説明では参加者の多さと時間的關係で、

実現不可能ということであった。実技がみられないというのは少し残念であった。

ランチ、ティーブレイク

ランチタイムとなると1000名近い参加者が一斉にフードコートに押しよせ大変な混雑であった。会場付近にも多数レストランはあったが、コンベンションセンターではその他の学会や展示会も開かれ、さらにはこの一体はKLCCという1年を通じてたくさんの人で賑わう場所柄であるため、一般参加者は昼食を取るのにもひと苦労のようであった。ティーブレイクも同じでコーヒーや紅茶を受けとるのに長蛇の列ができていた。ちなみにVIPはランチ、ティーブレイクともに別席が用意されゆっくりと時間を取ることができた。

展示ホール

今回のシンポジウムでは18の医療機器メーカー、出版社、健康食品会社、中医学院などがブースを設け各種商品などを紹介していた。とくに前二者は多くの地元臨床家らが集まっていた。

閉会式(図4)

閉会式では、はじめに中醫師鍼灸専門学会 楊建輝氏が挨拶を行ったあと、インドネシアのTOMY 医師らが次期開催地のバリ島の紹介を行



図4 . 閉会式 左より李振吉 前中医薬管理局副局長、
拿督蔡細歷 衛生部部長 (Y.B Datuk Dr Chua Soi
Lek Minister of Health Malaysia)、鄧良月、
廖德順

い、参加を呼びかけた。その後世界鍼灸学会連合会主席 鄧良月氏と前中医薬管理局副局長 李振吉氏の両氏で今大会の総評を行い、「1.規模が大きい 2.質がよい 3.段取りがよい 4.雰囲気がいよい 5.団結力がある」と5つのポイントを挙げ最大評価をした。最後に拿督蔡細歷 衛生部部長 (Y.B Datuk Dr Chua Soi Lek, Minister of Health, Malaysia) が、「一に鍼、二に灸、三に漢方、鍼灸は国民の健康に貢献しており、今後の法制化を含めた鍼灸発展のために国としても支持をしていく」と発言し、閉幕の言葉を述べ大会が終了した。

. おわりに

今回のシンポジウムは1000名以上の参加者が訪れた大規模なもので、そのほとんどが中華系の参加者で中国色の強い大会であった。これは鍼灸医学の起源が中国ということ、WFASの多くの役員が中華系であることから考えても致し方ないことかもしれないが、真に鍼灸医学を世界人民のために貢献させるのであれば、非中華系の人々との学術交流をさらに多くしたグローバルな展開をしていかなければいけないように思う。ただし、シンガポールの研究者が言っていたように長年の努力にもかかわらず英語での鍼灸教育は思うようにいかない現実や本当の鍼灸医学を含めた中医学を学ぼうと世界中から中国へ留学生が年々増えている状況からも(2004年中国27中医薬大学における留学生受入数4112名:河北新聞より)当分の間は中国主体、そしてその他の国は中国に従属していくという体制は変わらないように思える。日本鍼灸を今後どのように発展させ、中国及びその他の国々とのようにつきあっていけばよいのか、本稿を機会に考えて頂ければ幸いである。

謝 辞

原稿執筆にあたり御校閲いただいた鈴鹿医療科学大学兼JSAM国際部委員の東郷俊宏氏に感謝いたします。

International Conference Report 2

Report on 2006 WFAS International Symposium of Acupuncture in Kuala Lumpur, Malaysia

SUZUKI Satoshi

Suzuka University of Medical Science

Abstract

International symposium of WFAS (World Federation of Acupuncture-Moxibustion Societies) was held at Convention Center in Kuala Lumpur, Malaysia during 22nd -23rd of April. The organizer was Academy of Professional Acupuncture and Moxibustion Chinese Physicians' Association of Malaysia (馬來西亞中醫師公會會屬下馬來西亞中醫師鍼灸專業學會). The main theme of the symposium was "Acupuncture, Moxibustion and Chinese Medical to Maintain and Enhance Healthy Aging of Middle Age and Elderly Group". In this paper, I would like to report some of the important lectures and opening/closing ceremonies.

Zen Nippon Shinkyu Gakkai Zasshi (Journal of the Japan Society of Acupuncture and Moxibustion: JJSAM). 2006; 56(5): 828-832.

Key words: WFAS, Academy of Professional Acupuncture and Moxibustion Chinese Physicians' Association of Malaysia, International Symposium, Aging